

# いじめ予防のための 集団読書テキスト としての村上春樹『沈黙』



大阪樟蔭女子大学 学芸学部 国文学科

今田晃一



村上春樹全作品 1979～1989 ① 風の歌を聴け 1973年のピンボール 講談社 \*

村上春樹全作品 1979～1989 ② 羊をめぐる冒険 講談社

村上春樹全作品 1979～1989 ③ 短篇集Ⅰ 講談社

村上春樹全作品 1979～1989 ④ 世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド 講談社

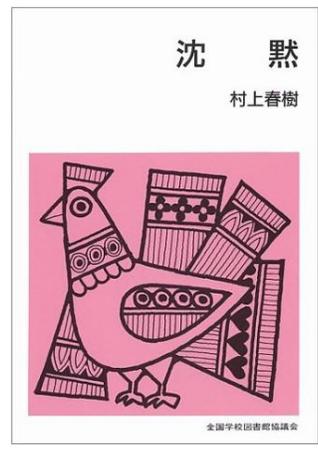
村上春樹全作品 1979～1989 ⑤ 短篇集Ⅱ 講談社



1991年1月に全作品集⑤に書き下ろし中期の短編

画像出典：すべて「Amazon」より

1993年3月



1996年11月



2006年1月



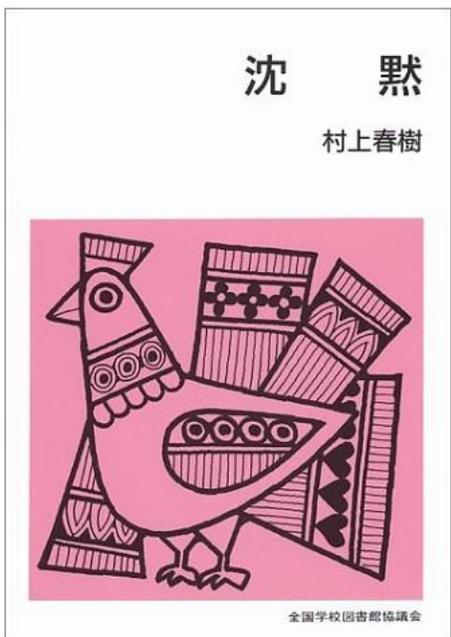
沈黙

この短編小説は僕の作品系列の中では、かなり特殊な色合いのものだろうと自分では思っている。とにかくストレートな話だ。僕自身は小説家として、正直に言っていて、このようなストレートな話あまり好みではない。これを書いたのは、この話の語り手が体験したのと同じような心的状況を、僕自身一度ならず経験したからである。僕としては、自分がそのときに感じた心情を少しでもリアルに、物語というかたちで換えてみたかったのだ。だからもともととても個人的な意味合いを持った作品であったわけだ。僕としては作品集の中に「こっそりと忍び込ませた」という感じの作品だった。しかしこの短編小説は僕の予想を超えて、多くの人に切実に読まれているようだ。そういう声をよく聞く。同じような立場に置かれたことのある（そして今も置かれてる）人々の心の支えに少しでもなってくれたら、僕としてはとても嬉しい。1991年に書かれた。本書に再録するにあたって、大幅に手を入れた。



そしてそれを見て**巧妙**に自分の対応を変えていくんです。だからみんな青木のことを感心しちゃうんです。**あれは頭のいいたいした男だって**。でも僕は感心しませんでした。青木という人間は僕には浅薄にすぎました。**あれが頭がいいということなら、僕は頭なんかよくなかったってかまわないとさえ思いました。**たしかに剃刀みたいにならずばと切れる。でもこの男には自分っていうものが無いのです。他人に対して**これだけは訴えたい**っていうものが何もないんです。

「集団読書テキスト」十六ページ



そしてそれを見て**機敏**に自分の対応を変えていくんです。だからみんな青木のことを感心しちゃうんです。でも僕は感心しませんでした。青木という人間は僕には浅薄にすぎました。たしかに剃刀みたいにならずばと切れる。でもこの男には自分っていうものが無いのです。他人に対して**自ら差し出した**いっていうものが何もないんです。

「はじめての文学 村上春樹」一九三ページ



# 授業における「YouTube」活用の可能性

☰ YouTube<sup>JP</sup>

村上春樹 沈黙

×

🔍

🎤



#トーマス #東京大学 #宝塚

どうも気に入らない人 国語が苦手な人のための動画241 村上春樹「沈黙」より

# 『沈黙』 あらすじ 朗読以降

## 大沢さん

- ・ 英語で初めて満点
- ・ 変なうわさ
- ・ 青木を呼び出す
- ・ 問いたただす
- ・ 反射的に殴った 鼻血
- ・ あやまらず去った



## 青木

- ・ 答案返却時に真っ赤
- ・ カンニングをしたのでは
- ・ 変ないいがりだ
- ・ つき飛ばそうとした
- ・ 午後は授業に出ず帰宅
- ・ その後ずっと無視

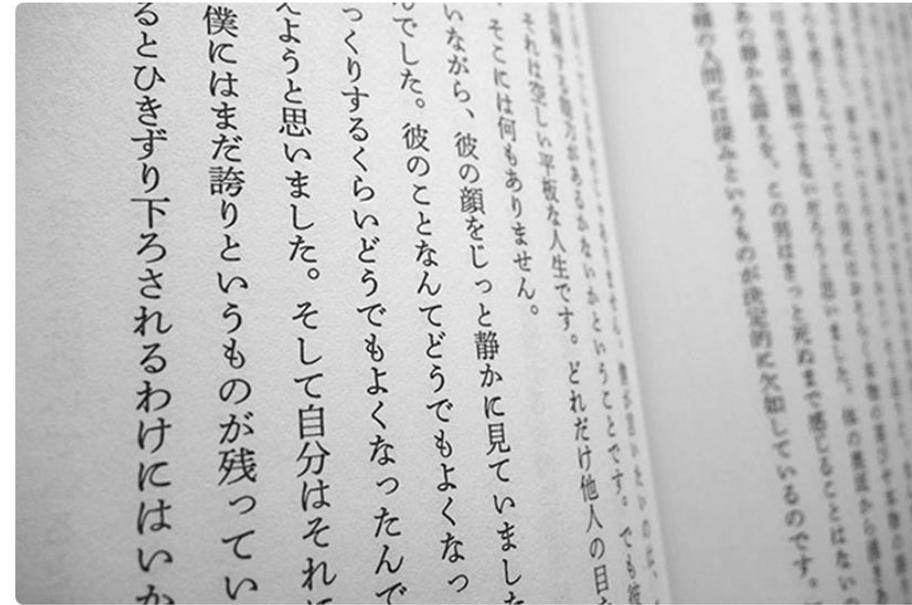
# 村上春樹『沈黙』名言集

『沈黙』の名言や心に響く言葉

“

忘れたいものは絶対に忘れられないんです。

『沈黙』 大沢さんの名言



“

ある種の人間には深みというものが決定的に欠如しているのです。

『沈黙』 大沢さんの名言

出典 「村上春樹新聞」 より

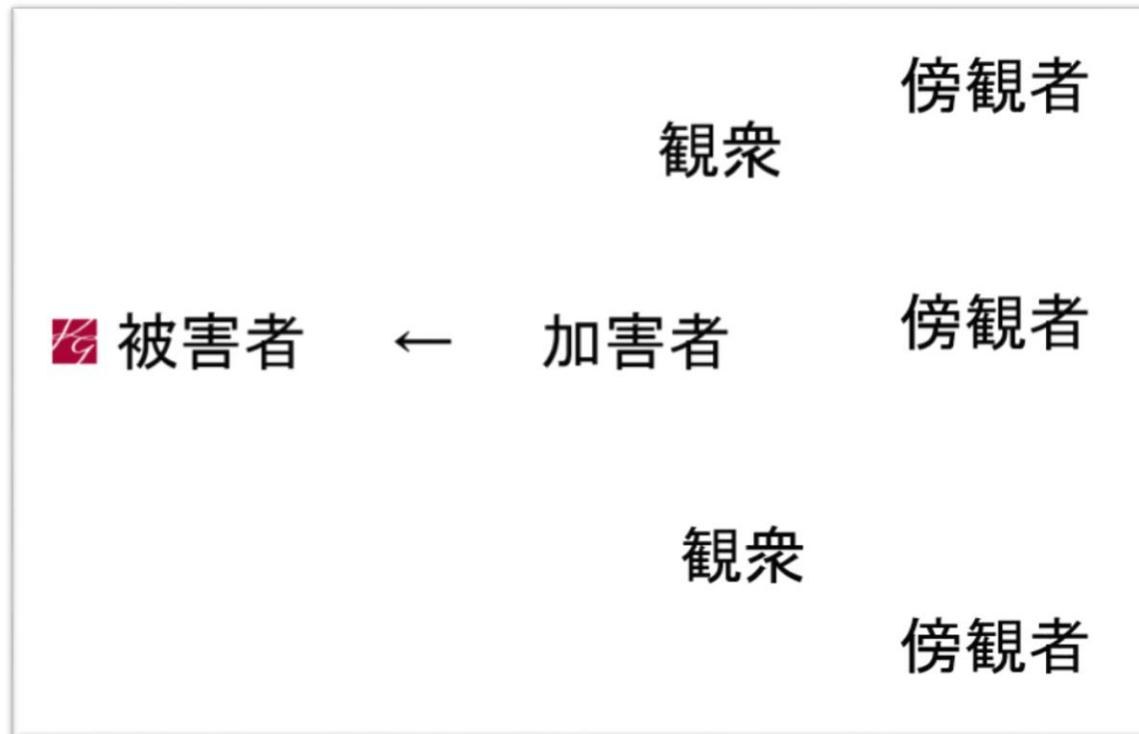
<https://murakami-haruki-times.com/chinmokumeigen/>



# 村上春樹『沈黙』名言集

でも僕が本当に怖いと思うのは、青木のような人間の話を無批判に受け入れて、そのまま信じてしまう連中です。

P.32



いじめの構造

